

## 秋田県市町村未来づくり協働プログラム

### 大潟村プロジェクト「干拓地の特性を活かした交流人口拡大プロジェクト」における 事後評価調書

#### 1 プロジェクトの目的

農産物直売所のリニューアルや、地場産品の販売促進などに取り組むとともに、漕艇場・水上スキー場の整備と、これらを活用した大会・合宿の誘致、ジオパークガイドの育成などにより、「交流人口の拡大」を図る。

また、他に類をみない「干拓地」である特性を生かした、肥沃な大地からの「食」、長大な水路での「水上スポーツ」、村まるごと「ジオパーク」といった資源を一体的に結びつけることにより、村の活性化を図る。

#### 2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	市町村 総事業費 (千円) A	交付金 (千円)	県事業・ 協働事業費 (千円) B	総事業費 (千円) A+B
H25. 11. 19	H25～H28	344, 731 (417, 060)	200, 000	4, 620	349, 351

※市町村総事業費欄の（ ）内は計画値

#### 【プロジェクトを構成する事業】

##### ○大潟村実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	備考
「産直センター潟の店」整備事業	138, 818	99, 000	H25～H26
「食」の提供・販売強化推進事業	10, 900	0	H26～H28
大潟村漕艇場・水上スキー場整備事業	57, 901	30, 000	H25～H28
水上スポーツ振興事業	28, 714	9, 000	H26～H28
美しい景観創出事業	67, 802	48, 000	H26～H28
受入体制・情報発信強化事業	40, 596	14, 000	H25～H28

##### ○秋田県実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	備考
スポーツ競技大会等の開催支援	1, 100	0	

##### ○県・村協働実施事業

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	備考
新規取組者等への農産物の栽培指導	0	0	ゼロ予算で実施
県内ジオパークとの連携による情報の発信	3, 520	0	

### 3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (H24 年度)	目標値 (H28 年度)	実績値 (H28 年度)	達成率 (%)	備考
産直センター潟の店 利用者数	26.4 万人	30 万人	31.6 万人	105.3	
産直センター潟の店 販売額	3.65 億円	4.8 億円	4.63 億円	96.5	
水上スポーツ施設 利用者数 (大潟漕艇場)	937 人	1,200 人	2,700 人	225.0	
〃 (水上スキー場)	948 人	2,600 人	3,600 人	138.5	
干拓博物館入館者数	24,500 人	30,000 人	20,528 人	68.4	

### 4 経済波及効果分析等

本プロジェクトによる経済波及効果は、直接効果に波及効果を加え、ハード事業費支出で 405 百万円、ソフト事業費支出で 38 百万円、来場者の消費支出で 306 百万円、合計 749 百万円と推計される。

	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	合計
ハード事業費支出	261 百万円	83 百万円	61 百万円	405 百万円
ソフト事業費支出	25 百万円	8 百万円	5 百万円	38 百万円
来場者の消費支出	189 百万円	79 百万円	38 百万円	306 百万円
合計	475 百万円	170 百万円	104 百万円	749 百万円

### 5 民間アドバイザーの意見

(民間アドバイザー：株式会社 開発計画研究所 石井 政雄 氏)

#### (1) 地域資源の活用について

本事業で得られた成果が一過性で終わらないように、地域資源を活用した政策的手段を講じる必要がある。

ジオパークや水上スキー、レガッタなどは、一般的にはあまりなじみのないものであるが、地域の魅力を引き出すためには、それらを関連付けながら地域づくりを進めることが必要である。

例えば、「日本一の干拓地」という視点から、大潟村にある施設、イベント、産業等を捉え、「大潟村まるごと生活博物館」と銘打つなど、体験を通して来村者の五感に訴える取組などを考える必要がある。

#### (2) 村民主体の村づくりについて

次の 50 年に向けて、集落の維持・活性化に向けた住民の参加意識・機運の醸成を図り、住民の主体的な村づくり活動が行われるような努力が必要と考える。

村づくりは、行政と村民、企業等がともに意欲を持って取り組むことが必要であり、創造力のある若者や地域づくりを牽引するリーダーを育成することも重要な要素となる。

各種団体やイベント、村内施設等、あらゆる地域資源を有機的に結びつけてネットワーク化を図り、「大潟村に行けば、とりあえず半日あるいは一日遊べる」または「ちょっとおもしろいことを

やっているところ」といった「常に変化し続けている場」のイメージを植え付けていくことが必要である。

## 6 その他参考となる事項

本事業により、産直センター潟の店のリニューアルが行われ、来店者数、売上実績ともに一定の成果を得たところだが、改修工事を機に販売スペースの拡張だけでなく、野菜グループの再編にも取り組んだことで、農家が産直センターに野菜等を出荷しやすくなり、野菜の量と品揃えが豊富になったことも来場者を増やした要因の一つとなっている。

また、ジオパークの全国大会や各種スポーツ大会を通して、干拓博物館の案内ボランティアや大会ボランティアの質の向上、意識の醸成が図られ、来村者に対する「おもてなし」の心がより向上したことは、今後の村づくりの一助となる成果といえる。

## 7 全体評価

プロジェクト構成事業については、計画した事業を概ね実施することができ、計画時に掲げた成果目標についても概ね達成できた。

産直センター潟の店については、成果目標とした産直センター利用者数と販売額が増加し、ポルター大潟野菜グループ会員の高齢化、出品数の減少に歯止めがかかったことは大きな成果であった。水上スポーツの振興については、大規模な大会を開催し、交流人口の拡大を図ることができた。ジオパーク環境の充実についても、八郎潟干拓地の歴史や入植者の歩み、大潟村の自然、景観を情報発信することができた。

総じて、ハード事業とソフト事業の連携により一体的に事業を実施したことにより、産直野菜グループ会員や水上スポーツの大会ボランティア、干拓博物館の案内ボランティア等、村内の多彩なステークホルダーの育成、連携が図られたことは、大きな効果と考える。

## 8 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

### (1) 総論

産直センター潟の店、干拓博物館、ボート競技場、水上スキー場などの村内各種施設を活用し、案内ボランティアや各種スポーツ団体、農業者団体、芸文活動団体等による様々な取組の中で、人の五感に訴えかけるリアリティのある取組を創出し、大潟村の多様な資源を活用した事業を展開する。

また、それぞれの資源を結びつけ、交流人口の拡大や地域活性化を図るため、お互いの意見交換や連絡調整を図る場づくりを検討する。

それぞれの分野で積極的に活動している、特に機動力のある若い人たちを中心に人材の発掘と育成に取り組むとともに、「大潟村にまた行ってみたい」と思ってもらえるような仕掛けづくりと、「どうしたら来村者に喜んでもらえるか、満足してもらえるか」というホスピタリティについて検討する。

### (2) 産直センター潟の店

本事業によって増加した利用者数、販売額を維持するため、西5丁目広場や干拓博物館と連携しながら、単に買い物をするだけでなく産直センターを拠点として利用者が地域を回遊し、長く滞

留できるような取組を検討し、このエリア全体の「にぎわい」創出を目指す。

### (3) 水上スポーツの振興

競技団体や関係学校等との連携を密にしながら、各種大会の開催のほか、引き続き、合宿誘致に取り組んでいく。また、ボート、水上スキー単体での活動では利用者拡大に限界があるため、NPOなど他の活動団体と連携した体験教室を組み合わせるなど新たな事業展開を検討し、水上スポーツの裾野を広げるとともに、競技人口の拡大につなげる。

### (4) ジオパーク環境の充実

干拓博物館を中心に、干拓と村づくりの歴史を絡めたジオパークの学習の場創出の取組を進める。その中で、案内ボランティアの活用や産直センター潟の店、農業者団体等との連携を模索しながら、「見る」「聴く」だけではなく、「体験」など五感に訴える要素を取り入れた事業展開について検討する。

### 【プロジェクトチーム構成員】

大潟村	総務企画課、産業建設課、教育委員会
秋田県	地域の元気創造課（幹事課兼事務局）、観光振興課、秋田うまいもの販売課、スポーツ振興課、農業経済課、秋田地域振興局総務企画部